

KUROKABE Renaissance

— 未来ある長浜に向けて、
再生にかける黒壁の挑戦 —



**黒壁ルネサンス
2014年 黒壁は新しく
生まれ変わります**

昭和の時代ほとんど人の行き来がなかった商店街に、年間200万人を超える観光客を呼び込み、中心市街地再生のけん引役を担ってきた『黒壁』。町衆の力により、まさに本市のまちづくりのシンボルとして生き続けてきました。

しかしながら、景気の低迷や黒壁が提供する商品と消費者ニーズとのズレなどから、収益力が低下し厳しい経営状況に陥りました。

平成25年2月、こうした経営環境の悪化に対処するため、大阪で経営コンサルティング会社を経営する弓削一幸氏が新たに代表取締役社長に就任。弓削さんは地元長浜市高月町出身で、これまで緻密かつ大胆な経営戦略、マーケティング手法により数多くのビジネスを成功に導いてきました。

弓削新体制のもと、昨年度、国からの補助金や本市からの増資を受け、創業25周年を契機としたリニューアル事業に取り組み、今年に入り続々と店舗が生まれ変わっています。

新しいコンセプト「黒壁Renaissance（ルネサンス）」と題した黒壁再生計画。黒壁はどのように変わるのか、そのビジョンやミッション、事業戦略、そして個別事業のコンセプトなどを弓削社長ほか3人の事業部長が語りました。

「大胆かつこだわりある改革を」

代表取締役社長 弓削一幸さん

1. Mission (ミッション) 人々の生活をデザインする

これまでの黒壁の一番の問題は、商品やその陳列方法、接客など黒壁が提供するサービス全般において、お客様視点が抜けていたこと。例えば、ガラスですが、デザインの良いものが商品として売れるというわけではありません。ガラスを売ろうと思うのではなく、お客様がどういうシーンで使うのかをまず考えること、お客様の生活スタイルのなかで足りない部分をその商品が補えるように考えることが大切です。つまり、『人々の生活をデザインする』ことが黒壁のミッションです。ここでいうデザインは問題解決を意味します。お客様が買い物をするということは、生活の中で何か欠けているものや困っていることがあるということなので、それを黒壁オリジナルの手法で解決できるような商品やサービスを提供していきます。

2. Business strategy (事業戦略)

黒壁ルネサンスのポイントは2つあり、一つが店舗リニューアルで、もう一つが長浜市全域の活性化です。店舗については、黒壁直営店舗11店舗のうち10店舗をリニューアルします。最も層の厚い、「日帰り観光客」を当面のターゲットとして4つの事業戦略をたてました。それが、「古い町並みを活かす」、「非常においしいレストラン」、

「フルラインアップのガラス」、「黒壁コーディネートの特産品」です。

秀吉公はどんな色を使うだろうか

「なぜ黒壁に来るのか」についてお客様アンケートをとり、一番多かった回答が、「古い町並みにノスタルジー（懐古や望郷の念）を感じるから」でした。そのため店舗の外観は、既存の情緒あふれる古い建物を活かしつつ、「秀吉公ならどんなデザインをしただろう」と考えました。南蛮文化が登場したあの時代を意識し、日本の良さを残しつつも欧州風のエッセンスを取り入れたものとしています。ちょうどフレンチレストラン『ROCK（ろく）』にその特徴を表現しており、黒壁独自の空間を演出しています。古い町並みは、まち全体の優れた資産ですから、活か

す取り組みを行っていきます。

妥協を許さない食とサービス

長浜は食文化の発信がまだまだだと感じています。地元の食材をできる限り使い、全国的にも優れた料理長とパティシエによる料理とスイーツを安価に提供するなど、妥協を許さない食とサービス、黒壁ならではの食文化を提供していきます。『非常においしいレストラン』を楽しみにしていただきたいと思いますね。

世界規模でガラスのプロダクト デザインコンペを

ガラス事業については、お客様視点での商品を提供することはもちろんのこと、ガラス文化を根付かせるために

県内に隠れているすばらしい 「ホンモノ」を発掘

黒壁コーディネートの特産品については、県内に隠れているすばらしい食や製品の「ホンモノ」を発掘してくるよう社員を県内隔々にまで走らせました。発掘した「ホンモノ」を黒壁でコーディネートしてお客様に提供します。

ローカルだからクールでしょ

中長期的事業戦略としては、長浜市全域の活性化の一翼を担いたいのです。成熟社会を迎え、地方への回帰、田舎の存在価値が高まっています。つまり、『ローカルだからこそこール』なのです。長浜の良さを知り、交流し、住み



も、現在扱っているクラフトデザイン、つまりアート感覚の手作りによるガラス以外にも、より実用的なプロダクトガラスにも力を入れていきます。世界規模でガラスのプロダクトデザインコンペをやりたいですね。クラフトガラスについては、現在の職人の技術と意識のレベルをもっと上げていきたいと考えています。